



2・3階展示室

植田正治の1980年代 砂丘、ふたたび

2024年6月15日(土) - 9月8日(日)

「画家とちがって、写真家は、どんな世代であっても、“過去”に足踏みすることは、消滅につながる。“今”が撮れる“生臭さ”が、いくつになっても必要なのだ。」とかつて記していた植田正治が、1983年、70歳になり突然ファッション写真を発表しています。鋭い時代感覚と感性が必要とされるファッションの分野への新たな挑戦でした。それでも、植田のイメージは高く評価され、その後も多くのファッションの仕事の依頼を受けています。この無謀ともいえる挑戦には、植田自身が決して語ることのなかった背景があります。

1983年3月、植田は妻の紀枝さんを亡くしています。病気療養中ではあったようですが、回復を信じていた植田の無念さは、写真が撮れないほどだったようです。そんな植田を励まし、ふたたび写真を撮るように仕事を用意したのが、次男の充氏でした。アート・ディレクターの仕事をしていた充氏は、依頼による仕事であれば、植田の性格からして断ることなく、写真家としての意欲を取り戻してくれると考えたそうです。そして、植田のかつてのホームグラウンド、砂丘での撮影を提案したのです。戦後間もなく、自身のスタイルのひとつの完成形として、自信をもっていた浜辺や砂丘での演出写真から離れていた植田にとっては、30年の時を超えた砂丘での演出写真、まさにリバイバルでした。

植田は1980年代、ファッションをはじめ「仕事の写真」を多く手がけますが、同時に「自分の写真」を常に追い求めていました。今回の展示では、妻の死を乗り越えふたたび写真と真摯に向き合った写真家の姿を浮き彫りにします。



【同時開催】
1階D展示室 コレクション紹介展示

植田正治物語 — 写真するボク —

植田正治の生涯にわたる写真活動の軌跡を紹介しています。ぜひご覧ください。

問い合わせ先

伯耆町立植田正治写真美術館
TEL:0859-39-8000

メール : bijyutsukan@houki-town.jp

ホームページ : https://www.houki-town.jp/ueda/

■開館時間／10:00～17:00 (最終入館は16:30)

■休館日／火曜日 (祝日の場合は翌日) ※8月13日は開館

町民の方は入館無料です。

ご来館の際は、広報ほうき6月号無料招待券をご利用いただくか、
免許証など住所のわかるものを提示してください。

人気の 美術館オリジナルTシャツ
入荷しました。

プリントは、
「シリーズ
〈砂丘モード〉より」
3,800円



大山ますみず高原 天空リフト
～空中散歩で絶景広がる感動パノラマへ～



町民無料招待券

大山ますみず高原天空リフト 往復券
※本券1枚で4名様までご利用いただけます。

有効期限 : 令和6年11月24日まで

大山ますみず高原天空リフト
西伯郡伯耆町大内榎水高原1069-50
TEL0859-52-2228

